# うくひす

http://wagtail.chagasi.com/meijiNP.html

発行所
月日星
編集・発行人
セキレイ
@WagtailW

## 嘉吉元年
## 足利義教↓小笠原政康

足利 二つ引き

小笠原 三階菱

**嘉吉元年(1441)五月二十六日**
**勝山小笠原文書**

今度結城館事即時攻落凶徒等悉討捕 剰虜 春王丸安王丸畢武略無比類尤感思食候 仍鶯太刀 友成一腰 遣之候也

五月廿六日　義教将軍花押

小笠原大膳大夫入道殿

＊＊＊＊＊

編集注記：明治四年廃藩置県後小笠原家の東京の移住先は日本橋区浜町(旧勝山藩上屋敷)現中央区日本橋久松町以降住所に関しては番地を省略最後の勝山藩主長守は明治6年に家督を長育(13才)に譲る

**明治十九年十一月十八日**
**朝日新聞**

**辞令　明治十九年十一月**

明宮勤務被仰付年棒二百四十円下賜
正四位伯爵松浦　栓
従五位子爵小笠原長育
同上

**明治二十年二月九日**
**読売新聞**

主人義這回左記の地へ移転致候に付此段辱知諸彦並同郷の諸君へ御報道仕候也

牛込区牛込弁天町(現新宿区弁天町)
子爵　小笠原長育　家扶

**明治二十一年十一月二日**
**東京朝日新聞**

## 宝剣鶯丸

旧勝山藩小笠原家おいて祖先より伝来の鶯丸と名づくる宝剣は其初足利義教将軍の佩刀なりしを同家の祖先たる大膳大夫長春といふ人が賜はり爾後引き続き今日まで伝来せしものなるが作は 備前友成長さ凡そ二尺三寸おいて友成の作よりも最も見事の出来なるがごとく光芒陸離一見人をして寒からしむるものなるを今度靖国神社境内なる遊就館より出品して来る六日の大祭より諸人の縦覧を許すよし

編集注記：大膳大夫×長春○政康もしくは正透。(正透は政康の法名)

**明治二十一年十一月六日**
**読売、毎日、東京日日**

## 「靖国神社大祭」

今明両日は靖国神社の大祭なるが同社にては社殿脇へ一の暇屋を設け豫定の如く昨日午後七時より旧久留米藩士真木和泉守他十七名の招魂祭をも執行し本日は競馬、明日は能及び富士見町木村官兵衛の奉納に係る競馬あり尤も雨天なれば順延との事又右大祭に付同境内の遊就館は昨日より大祭中臨時総覧を許さるるよしなるが今度諸家より同館へ出品ありし内著しきもの左の如くなりと

○宮内省より金装の御太刀

**○子爵小笠原長育氏より備前友成刀(鶯丸と称す)但足利義教将軍感状添**

○子爵本田忠教氏より国次刀、中島来刀○侯爵徳川義禮氏より名物貞宗短刀、大進坊祐慶刀○子爵内藤六十麿氏より古い蒔絵鞍○公爵毛利元徳氏より金造短刀岩倉住行観造にて贈従一位敬親氏常に帯せし品○子爵有馬道鈍氏より正恒太刀○子爵田中光顕氏より一文字貞眞太刀、備前国一文字助宗太刀○伯爵松平基則氏より木村長門守重成差料刀○伯爵伊達宗基氏より南■剣二本○伯爵井伊直憲氏より粟田口久國刀一腰○侯爵蜂須賀茂昭氏より大坪道■の作鞍鐙一ト組○伯爵南部利恭より金造り太刀友成作○子爵伊藤長■氏より國行太刀、糸巻太刀宇多平國、鶴ノ丸紋散蒔絵薙刀

**明治二十二年十一月八日**
**東京朝日新聞**

**叙任・辞令十一月六、七、八日**

任東宮侍従正五位子爵小笠原長育
同　　正五位子爵大宮以季
同　　正五位　勘解由小路資承

**明治二十三年四月二十四日**
**読売新聞**

頃日来当家名義を以て金円賃借等諸方へ申込ものえあるやに伝聞す右は当家に於て一切関係無えに付此段広告す

牛込区牛込北町(現新宿区細工町)
小笠原長育家扶

編集注記：住所の記録として記載弁天町とは近いが別住所（多分）

**明治二十四年七月二十五日**
**読売新聞**

御隠居従四位長守殿御儀兼ねて御病気之處御養生無御叶今二十四日午前一時被成御逝去候此段旧勝山藩士に御報告致候也但来二十六日午後四時本所番場町(現墨田区本所町)御私邸御出棺

浅草松葉町海禅寺へ御葬送の事
子爵小笠原長育家扶

**明治二十四年十二月十七日**
**読売新聞**

今般都合に依り左記の地へ転居此段辱知諸君へ広告す

赤坂区青山北町(現港区北青山)
小笠原長育

## 明治二十一～六年？
## 小笠原長育↓　？

編集注記：明治二十六年に長育により再装丁された小笠原家重代の文書「小笠原文書」の目録に鶯丸の感状が含まれていないため

**明治二十八年一月十一日**
**読売新聞**

子爵小笠原長育特旨正四位に進められ候處病気養生不相叶遂に九日逝去候此段知友並旧勝山藩諸君に御通知申上候葬式儀は今十一日午後一時青山邸出棺青山墓地へ埋葬候也

男　小笠原勁一
親戚子爵柳生俊郎

編集注記：「勝山藩古事記」には長育の墓所は浅草海禅寺とある

**明治三十二年七月五日**
**読売新聞**

## 「足利義教の刀　鶯丸」

越前某地の旧藩主某子爵重代の寶刀に鶯丸と呼ぶがあり能登守教経の佩刀を鍛たる備前友成の作にて長二尺四寸、足利将軍義教の蔵する所なりしが義教故ありて之を 某家の遠祖に與へ自筆の感状を添へければ同家に於て上なき寶物として永く子孫に伝へ先年同家より粟田口久國の太刀他二口と共に遊就館へ出陳せしこともあり然るに同家改革の際此四品は去る人の手に流れて久しく踪跡を知る能はざりしが旧対州候宗子爵は刀剣の鑑識に富みて現今帝室御物中第一位を占むる平家の小烏が伊勢家を離れて外人の手に渡らんとするを廃刀令発布の当時喰ひ止めし程なれば鶯丸の行衛に就ても大に苦慮する所ありしに先比鹿児島県人重野某氏(安繹博士の親族)其所在を知るよし風聞せしかば子爵は傳を求めて某氏を尋ね出し種々交渉の末此程遂に夫の鶯丸を買い取りたる由

**明治三十二年七月十一日**
**東京朝日新聞**

## 「足利義教の刀」

越前某子爵家に伝わりし寶刀鶯丸は 備前友成の作にて足利義教の蔵せしを手書を添へて 某子爵に賜りしが其後轉輾(てんてん)して所在知れざりしを 対州宗子爵百方捜索し重野某の手に在るを知りゝを購ふて家に蔵す

## 明治三十二年頃
## ？↓宗重正

宗 丸に四目結

**明治三十五年五月二十七日**
**東京朝日新聞**

## ●宗重正薨去

正二位伯爵は久しく老衰白病蓐に在りしが、終に一昨日二十五日夕を以て薨去せり。伯は故対馬守義和氏の三男にして弘久四年十一月六日対馬厳原に生れ幼名義連といへり。文久二年十二月封を襲ぎ同三年従四位下侍従対馬守に任ぜられ明治元年従四位上に昇叙、二年版籍を奉還す次いで同二十年正四位に二十五年従三位に三十三年正三位に同年未従二位に昇叙、昨日を以て別項の如く更に正二位に叙せられたり。明治十五年伯は所蔵の名刀小烏丸を献上し思召を以て金杯三箇を賜はり十七年伯爵を授けらる。

## 明治三十九年頃
## 宗重望↓田中光顕

田中 三つ葉木瓜

## 明治四十年
## 田中光顕↓明治天皇

編集注記：献上時の記事では鶯丸に「君万歳」と刻まれているとも読めるが、実際は刻まれていないはず。鶯丸の佩表の銘は「備前国友成」。他の君万歳友成の話が誤って伝わったか？

**明治四十年十一月二十一日**
**読売新聞**

## ●宮相より献上の名刀
### ―結城大本営に於て―

宮内大臣田中光顕氏は大演習行幸供奉として結城に滞在中同地に因み深き足利家重代の鶯丸といへる名刀を畏き辺に奉りたりと云ふが其名刀の由来を聞くに後花園天皇御宇永享十一年二月足利将軍義教は諸軍を発して結城を攻めしも四月城陥りて氏朝戦死し春王安王は小笠原大膳大夫入道政康及長尾因幡守豊景の為に擒にせらる持氏の季子永寿王も亦擒にせられ春王安王は其五月に美濃の垂井にて斬られしも永寿王は未だ幼年なりしかば死を許され後古河公方成氏と称したりき又小笠原政康は将軍義教より褒賞として足利家重代鶯丸の太刀に感状を添えて與えらる其の感状に曰く

今度結城館事 即時攻落 凶徒等悉討捕 剰虜 春王丸・安王丸畢武略無比類尤感思食候
仍鶯太刀友成一腰 遣之候也
五月二十六日　義教将軍花押
小笠原大膳大夫入道どのへ

備前国友成は一條天皇御宇永延の頃の刀工にして表に「君万歳」と打ち裏に「備前国友成」と銘打ちたるものなりと云う当時宮相は左の歌を添えて奉れる由なり

結城の大本営に供奉しける時鶯丸の太刀に添えて奉れる 光顕上

美いくさはたたかふ毎に勝山の
城につたへし太刀たてまつる

大前にささぐるたちのつかのまも
われはわすれじ君がめぐみを

**明治四十年十一月二十一日**
**東京日日新聞**

## ●献上の太刀

▲足利家重宝鶯丸

常野大演習の折から田中宮相より畏き辺りへ献じたる足利家の重宝鶯丸の由来を聞くに花園帝の永享十一年庚申二月足利持氏自殺の後なり遺臣等は曹子春王安王の二方に供奉して二荒山に潜みてやがて結城氏朝に依り下総国結城の城に兵を挙げしも其の甲斐なく嘉吉元年辛酉足利将軍義教の追手は大兵となりて城を囲み同年四月城陥り氏朝等は戦死し春王安王の二子は小笠原大膳大夫長尾因幡守の手に擒われ翌五月美濃の垂井に斬られぬ此の際功により将軍家より一腰贈られえれ後に鶯丸と名付けられしものにて一條帝の永延年中に備前国友成の手に作り表に「君万歳」との刻ある名刀なりしとぞ因みに宮相が詠みたる奉献の歌を茲に掲ぐ

みいくさはたたかう毎に勝山の
城につたへし太刀たてまつる

大前にささぐるたちのつかのまも
われはわすれしきみかめくみを

**明治四十年十一月二十一日**
**東京朝日新聞**

## 名刀「鶯丸」の献上

▽結城大本営に於て
▽田中宮相より奉献

宮内大臣田中光顕氏は大演習行幸供奉として結城に滞在中同家に因み足利家重代の鶯丸(備前友成作)を畏き辺に奉りたりと云う今其名刀の由来を聞くに左の如し

後花園天皇御宇永享十一年庚申二月足利持氏自殺の後持氏の遺臣等、持氏の二子春王安王を奉じ下総結城の結城氏朝に頼り兵を挙げしが翌嘉吉元年将軍義教諸軍を発して結城を攻め四月城陥り氏朝等戦死し春王安王は小笠原大膳大夫入道政康及長尾因幡守豊景の為に擒にせられぬ小笠原政康此の戦功に因り将軍義教より褒賞として足利家重代「鶯丸」の太刀にして之に添えたる感状に曰く

今度結城館事 即時攻落 凶徒等悉討捕 剰虜 春王丸・安王丸畢 武略無比類尤感思食候
仍鶯太刀友成一腰 遣之候也
五月二十六日　義教将軍花押
小笠原大膳大夫入道どのへ

備前国友成は一條天皇御宇永延の頃の刀工にして表に君万歳と打ちたり裏に備前国友成と打ちたり

結城の大本営に供奉しける時鶯丸の太刀に添えて奉れる歌 光顕上

御軍は戦かふ毎に勝山の
城につたへし太刀たてまつる

大前にささぐる太刀のつかのまも
我は忘れじ君がめぐみを

**明治四十二年八月二十一日**
**東京日日新聞**

## 続刀剣談(十一)　羽皐

**▲天覧の名刀**

三十六年の秋、播州地方に大演習があって、陛下姫路の偕行社へ行幸あらせられた時、天覧に供した名刀が沢山あるが、(略)

酒井伯よりは古備前友成の太刀を献上したが、友成は古備前の名作なれど、他の刀に比して存して居る物が多い。別役君の話に友成中で優れた出来で然して正しい物は鶯丸友成で有ろうと言われた。此刀は越前勝山の城主小笠原家の先祖が足利家より戦功に依って賜った物で、その時の感状が付いている。生忠で太刀銘にて「備前国友成」と長銘に切ってある。維新後故あって宗伯爵家に渡って同家の重器であったが、三年程前に田中光顕伯が買い取って之を献上した。猶外に友成のある處は(略)